

中国教育部国家教育发展研究中心
チューニング調査団との研究交流

チューニング哲学の取組・今後の計画

桜美林大大学 講師
チューニング哲学分野代表
田中 一孝



J. F. OBERLIN

1. 我が国の哲学分野におけるチューニングの必要性

哲学教育を取り巻く一般的背景

- 人文社会科学系学問への評価の現実
- 卒業生たちのキャリアパスの不透明感

哲学教育の現状

- 研究者養成型カリキュラムの色濃い痕跡
- アウトカムベース教育への懐疑的態度

American Philosophical Association (1995), "APA Statement on Outcome Assessment", Proceedings and Addresses of the American Philosophical Association, 69

- カリキュラム・学士課程プログラムについての議論の不在

Cf. 日本学術会議(2016)「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準：哲学分野」

2. 哲学分野におけるこれまでの活動と成果・課題

次世代哲学教育研究会の発足

- 2016.3
- 哲学教育の意義を社会的に広めること、哲学の学習活動調査、哲学のカリキュラム改善などのためにチューニングの手法を採用

哲学的能力尺度の開発

- ステークホルダーへのインタビュー、先行研究サーベイを通じて33項目の哲学の学修成果を析出
- 4大学で調査
- 3共通因子構造、15項目からなる哲学的能力尺度の策定

3. 哲学分野における今後の活動計画

哲学的能力尺度を哲学の学修成果として普及

- 関西哲学会第70回大会(2017.10)で公表
- 学会からの裏書きを求める

学位プログラムの改編

- 桜美林大学における哲学専攻、倫理学専攻、キリスト教学専攻、宗教学専攻において、学修成果に基づくカリキュラム改編を実施
- アウトカムベースの学位プログラム改編のプロトタイプを目指す